



保護者、地域の皆様へ

アカシヤ

【学校だより】

令和4年

3月23日(水)

最 終 号

御 礼

約20年以上も昔の事です。

ニューヨークの高層ビルにハイジャックされた民間機が激突しました。いわゆる「9.11」。この後、アメリカは対テロリストとの争いを強めていきます。対テロリストとの抗争はやがてアルカイダやタリバンなどイスラム原理主義へと広がり、更にはアフガニスタンやイラクとの戦いへと発展していったのです。

「9.11事件」が起きた頃、私はイラクに隣接する国の日本人学校で中学生を教えていました。生徒とその家族は次々に国外へ退避し、学校はどんどん寂しくなっていきます。私の住んでいた家の2軒隣でも爆弾や武器を作っていた組織が摘発されるなど、状況は日に日に悪化していききました。そのような折、諸国は国対国の戦争へと拡大するのを回避しようと、いろいろな方策を模索しました。特に重視され、繰り返されたのが 休戦や停戦に向けての「話し合い」です。各国の首脳はさまざまなテーブルにおいてさまざまなメンバーと話し合い、戦争回避の道を探りました。それらの「話し合い」が進められている間は大きな戦いが起こらず、戦地は小康状態になりました。しかし、またしばらくすると世論は少しずつ変わっていききます。「やはり大量破壊兵器を作ったり隠したりするのはけしからん」というような考え方がいつの間にか大勢を占めるようになりました(後に大量破壊兵器に関する情報は「ウソ」であったと国連安保理で報告されることとなります…)。やがて、その話し合いの場や機会はどんどん少なくなっていくようになり……ついに、アメリカはイラクに最後通牒を突きつけます。

私の記憶が正しければ3月20日。「イラクの自由作戦」という名目で空爆が開始されました。当時、化学兵器や細菌兵器などを含む兵器によるイラクの報復攻撃が懸念されていました。空爆が始まった夜。私は非常食を備え、カナリヤを飼い、すべての窓ガラスには目張りをし、一つの部屋で妻と3歳の娘と肩を寄せ合って過ごしたときのことを忘れることができません。

こうした経験から、①「真実を見極めるための力を備えること」②「話し合いを止めないこと」が私の教育に対する考えの基軸となりました。

- ① 「真実を見極める」ためには豊富な知識や技術、思考力・判断力などが必要になります。一般的に言う「学力」そのものを確かに備えることが真実を見抜くためにはどうしても不可欠なのです。もちろん、自分自身がウソをつかない、ウソを許さないという態度そのものを備えていることが前提となります。
- ② 「話し合いを止めないこと」は争いを防ぐためにシンプルでかつ効果的な手段。家庭でも、学校でも、地域でも…「話し合い」が行われなくなったとき、さまざまな問題が発生します。学校で問題が起きたらとにかく「話し合う」。そんな機会や経験を大切にするよう指導してきました。特に誰かから「話し合いなさい」と言われてから話し合うのではなく、自分たちで課題を見つけて、自ら「話し合おう」とすることができる力が最も尊いと感じています。

昨年、アフガニスタンから米軍が完全に撤退しました。それでは、アフガニスタンが好転したのかというとそうではなく、食糧不足問題がこの10年でもっとも深刻になっています。国民の93%が飢えに苦しんでおり、このままいくとアフガニスタンにおいて、飢えで死亡する子どもが100万人になると試算されています。福島県民の半分以上もの人数です。戦争によって真っ先に苦しむのは子どもとお年寄り。この事実は歴史が何度も証明しています。

皆様ご承知のように、ロシアとウクライナの問題が深刻化しています。最後通牒さえ無い状態で侵攻が始まり、一方的な攻撃が続いているように思えます。私たち大人も、真実を見極めようとすることが重要です。何が正しくて何がウソなのか…。そして何度話合いが決裂しようと、話合いを止めることのないようにしていかなければならないのだと思うのです。ウクライナの子も、ロシアの子も、世界の子どもたちが平和の中で共に成長することを支えるために指導するのが教師の仕事なのだろう、大人の責任なのだろうとあらためて感じる今日です。

少なくとも本校の子どもたちが争いに加わる人材となるのではなく、平和を支える人材に育てほしいと心から願います。そして世界に、日本に平和が続くのなら、子どもたちがやがて飯坂を支え、川俣を支え、福島を支える人材となってくれることを信じて止みません。



本日、飯坂小学校最後の卒業式が終わり、本校最後の卒業生9名が巣立っていきました。残るのは27日(日)の閉校式・閉校記念碑除幕式・離任式のみとなります。特に閉校式においては、参観を希望される多くの方にご来校いただきたいと考えておりましたが、今月上旬までまん延防止措置期間にあったため、地域の皆様にあらかじめお知らせすることが叶いませんでした。当日は、会場となる体育館だけでなく、別室にてオンライン形式で閉校式をご覧になることも可能です。事前に連絡をいただければ、閉校式の参観は可能であると、希望される方にお伝えいただければ幸いです。

最後になりましたが、在任中、多々至らない所、非礼の件など直接会ってお詫び申し上げなければならぬところ、この場を借りてお詫び申し上げますとともに、これまで長い間、本校教育活動を支えていただいた保護者の皆様、諸団体の皆様、地域の皆様に心より感謝申し上げます、御礼の挨拶といたします。

令和4年3月23日

飯坂小学校長 丹伊田 伸哉